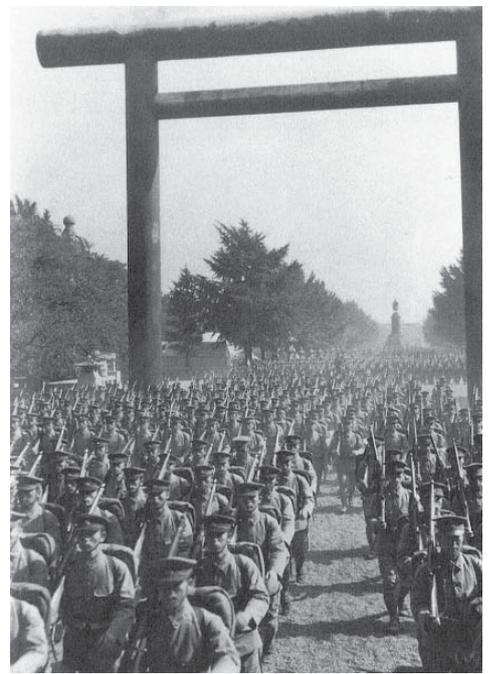


JRP・現研 夏季ワークショップ 70年目の8月15日を撮る

参加費 15,000円 定員 15名程度
講師 英伸三 金瀬胖 鈴木純平 他

先の大戦でチャーチルは、日本の都市は紙と木でできているから焼夷弾で火をつければひとたまりもない、とルーズベルトに教えた。チャーチルはそれ以上の真実を把握していた。日本人は、平気で現実を知らない、という根本的な弱点がある。本当に直接的な被害が襲いかかるまでは”危険”を実感しない不思議な生き物だ、と。(橋本治『日本の戦争2』毎日新聞社より)

戦争とは機械仕掛けの怪獣に捕らえられることであり、巨大な報道装置に巻き込まれることであり、人が致命傷を負うことである。戦後とは、経済復興・冷戦勝利というバカげたシナリオではなく、国家間の戦争の連鎖から抜け出すために、壊滅戦争で負った傷を、友愛と勇気によって9条という平和への回路に転換させた時代なのだった。人間としての生の経験と自由な創造が可能な時代を築いてきたのだ。写真に関わる人たちもまた。



出兵する陸軍の靖国参拝 1943.10(毎日新聞社)



増産奨励のモデルになった女優・原節子 1943.11



台湾で徴兵された青年 1943 (毎日新聞社)

8月14日(金) 18:00～ 現研教室 講座「都市と戦争・写真家は何を見たか」

第二次世界大戦は戦争の標的が軍ばかりでなく主に都市・市民を標的にした殲滅戦となり、凄惨な終戦となった。報道は何を伝え、何を伝えなかったか。写真家は何をみたか。土門拳、木村伊兵衛、安井仲治など日本写真家はどうか戦争を捉えたか。ブレッソン・ドアノー・ヴァシニャックなどヨーロッパの写真家は戦争に何をみたか。スライド、写真集などを見ながら、撮影プランも話し合います。

8月15日(土) 撮影「70年目の8月15日を撮る」

東京は戦争都市、軍都であった。国民を戦争に動員する中心地でもあった。いま再び戦争に駆り立てる政治が暴走する。国会、皇居周辺、靖国神社、隅田川沿いなどを廻り写真を撮ります。

(集合 11時 ①国会首相官邸前交差点 ②浅草雷門 雨天決行)

8月16日(日) プリント 13:00～18:00 現研教室

撮影した写真を2L～A5にプリントします。(材料費は各自で。)

8月17日(月) 編集と構成 午後の部 13:00～17:00 夜の部 18:00～21:00

8～16頁のグラビア編集と3枚組の展示構成をします。現研教室 ※3枚組作品を9月上旬、現研ギャラリーに展示します。



竹槍訓練する女性 1945.7 鹿児島県志布志(同上)



「戦後70年 よみがえる日本の姿～オーストラリア戦争記念館 所蔵写真展」から 8.15「皇居前」「国会」「隅田川」

2015 夏季ワークショップ 参加申し込み書 TEL⇒03-3359-7611 FAX⇒03-3355-1462 mail:jimukyoku@genken.ac

氏名 所属 支部 個人会員 現研生 一般

連絡先 メールアドレス

★17日(月)の希望時間帯 午後の部 夜の部 (○をしてください) 月 日

★参加費はいずれかにお振込をお願いします。

◇ゆうちょ銀行 0一九店 当座 0546814 ◇郵便振替口座 00110-7-546814 口座名義 現代写真研究所事務局

◇三菱東京UFJ銀行四谷支店(普) 4660049 ◇みずほ銀行四谷支店(普) 1168372 口座名義 株式会社現代写真研究所